



三番茶芽の 充実を図ろう!!

茶



農業経営支援課
福手 裕三

《三番茶摘採の可否》

早場所の一部地域では、三番茶の摘採が行われます。ただし、8月上旬までに摘採ができない茶園では、そのままの状態での樹勢の維持を図ってください。

《土壌改良材の施肥と深耕作業》

土壌改良資材の施用は、7月中旬から実施する茶園があります。土壌の酸性化を矯正するために、セルカや苦土石灰等を10a当たり100kg施肥してください。茶園によっては、強酸性土壌（pH3.0以下）のほ場もあります。一旦pHが下がってしまつと補正に大変な資材と労力がかかってしまうので、土壌改良材を毎年使用することをおすすめします。

なお、施用後は深耕作業を行い、表層にある腐植と混和することで土壌に酸素を入れ、細根の活性化を図ってください。

※茶園土壌診断を実施して、適正なpHになるよう土壌改善を図りましょう。

《病害虫防除》

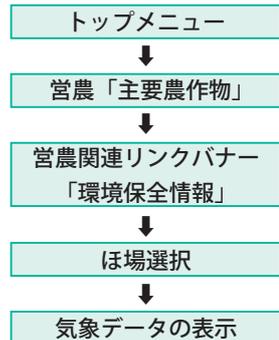
○チャハマキ、コカクモンハマキの防除時期です。だから発生が予測される場合には、フェロモントラップの予察情報などを参考にしながら早めの防除を行ってください。散布の際には使用薬剤の特性（散布タイミング）をいかけた防除を行ってください。

○8月中下旬頃の少し涼しくなってきた頃から、カンザワハダニが発生することがあります。発生が確認された場合は、必要に応じて対象薬剤の散布を行ってください。

《干ばつについて》

最終芽の生育時期にあたる梅雨から夏の気象は、茶樹の生育に大きな影響を及ぼします。特に心配される気象災害は、水不足と高温障

【JAおおいがわホームページ】



過去1か月の数値が確認できます。

害です。高温障害に対する直接的な対策は、やはりかん水となります。かん水の必要性は、pH値という数値で判断します。通常はpH値1.5程度。このpH値が2.1以上になると「かん水が必要」と判断されます。また、日中暑くても、水分を保持していれば、葉の温度は冷たく感じます。古葉に触れて熱いと感じたら、かん水のサインです。地域ごとのpH値は、JAおおいがわホームページで確認できます。